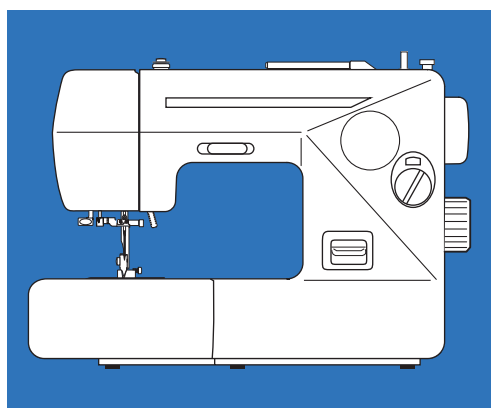


使用の手びき

型式：5720



SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用前に必ずお読みください。「使用の手びき」は手元に保管し、未長くご活用ください。

安全にご使用いただくために

- ◆このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
- ◆このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

⚠警告 感電・火災の原因になります。

一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。



以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。

- ・ミシンのそばを離れるとき
- ・ミシンを使用したあと
- ・ミシン使用中に停電したとき



⚠注意 感電・火災・けがの原因になります。

電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。



必ずプラグを持って抜く

お客様自身での分解はしないでください。

以下のことをするときには、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。

ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。

- ・針・針板・押さえ・アタッチメントを交換するとき
- ・上糸・下糸をセットするとき
- ・ミシンのお手入れを行うとき

ぬいの途中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。

曲がった針はご使用にならないでください。

針および押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。

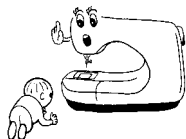


必ずプラグを持って抜く

ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。

ミシン・フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源プラグを抜き、ご購入店にて点検・修理・調整をお受けください。

お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。



- ・正常に作動しないとき
- ・水にぬれたとき
- ・落下などにより破損したとき
- ・異常な臭い・音がするとき
- ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

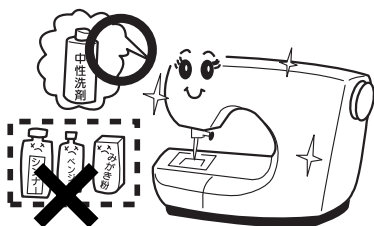
このたびはシンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用電子ミシンです。

このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、
まずこの「使用の手びき」をお読みください。

「使用の手びき」は、大切に保管してください。

お取り扱いについてのお願い

ご使用前に

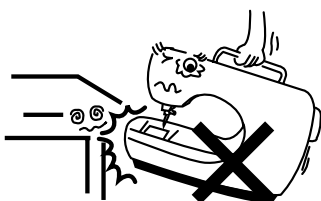


- ① ほこりや油などでぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は、絶対に使用しないでください。

いつまでもご愛用いただくために



- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。



- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

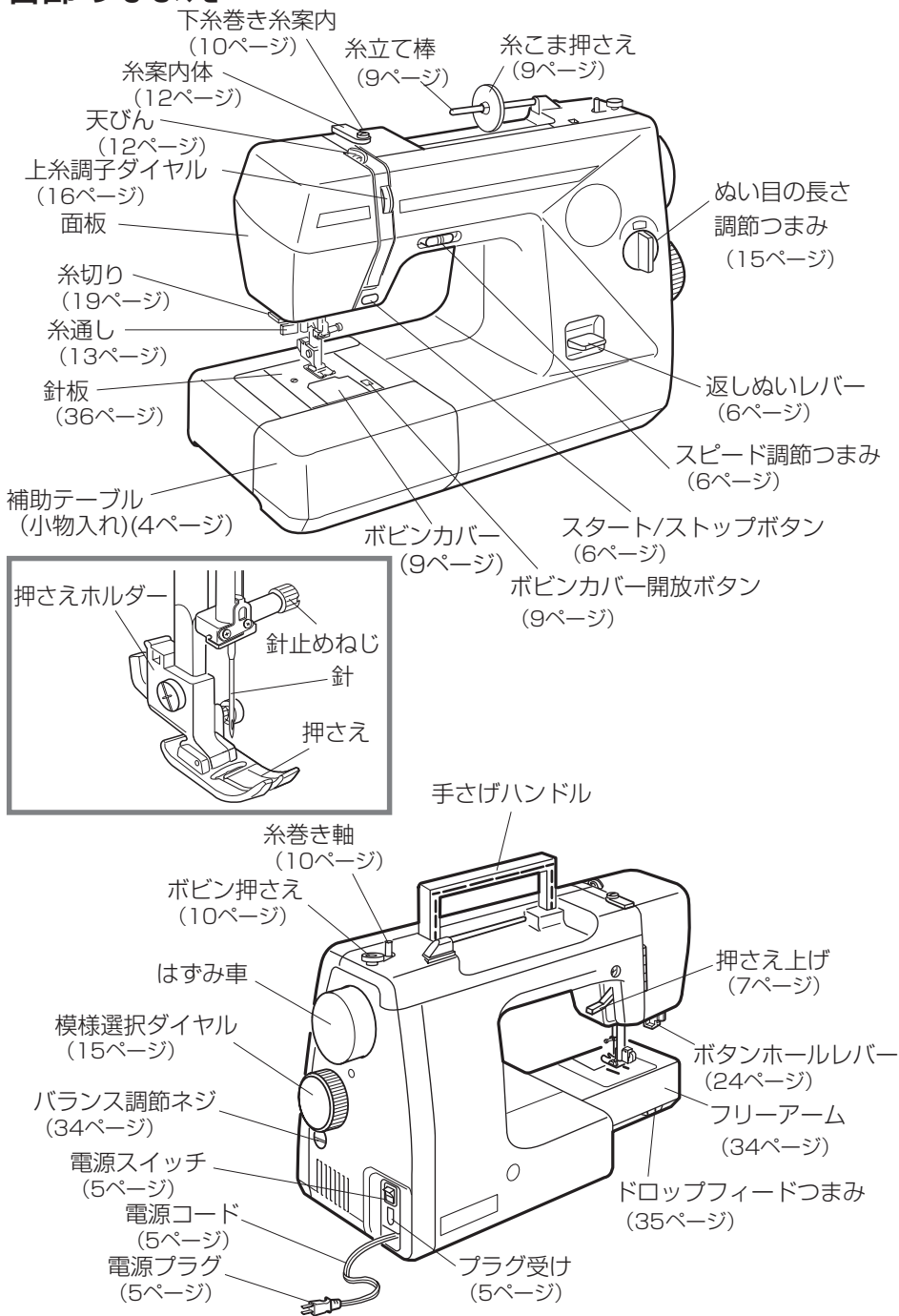
修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときには、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(38～39ページ)により点検・調整を行ってください。

目次

安全にご使用いただくために	表紙裏	ジグザグぬい	20
お取り扱いについてのお願い	1	ふちかがりぬい (たち目かがり)	21
各部のなまえ	3	つくろいぬい (点線ジグザグぬい) ..	22
標準付属品・補助テーブル	4	伸縮強化ぬい	22
操作方法		オートボタンホール	23-25
●電源のつなぎ方	5	芯入りオートボタンホール	26
★スタート/ストップボタン使用のとき	5	ファスナーつけ	27-29
★コントローラー使用のとき	5	まつりぬい (ブラインドステッチ) ...	30
●スタート/ストップボタン	6	ピンタック	31
●スピード調節つまみ	6	シェルタック	31
●返しぬいレバー	6	ファゴティング	32
●押さえのあげ方・さげ方	7	パッチワーク	32
●押さえの取りかえ方	7	アップリケ	33
●針の取りかえ方	8	フリーアームぬい	34
●糸と針の選び方	8	模様の形の調整	34
●下糸の準備	9-11	ししゅうぬい	35
★糸こまの取りつけ	9	送り歯のさげ方	35
★ボビンの取り出し方	9	ミシンのお手入れ	
★下糸の巻き方	10	●かまと送り歯の掃除	36
★ボビンのセット	11	●内がまと針板の組みつけ	37
●上糸の準備	12-14	ミシンの調子が悪いときの直し方 ..	38-39
★上糸のかけ方	12	修理サービス要領	40
★糸通しの使い方	13	お問い合わせまたはご相談先	40
★下糸の引き上げ方	14		
●模様選択ダイヤル (模様の選び方) ..	15		
●ぬい目の長さ調節つまみ	15		
●糸調子のとり方	16		
直線ぬい	17-19		
●ぬい始め	17		
●返しぬい	17		
●ぬい方向のかえ方	18		
●厚手のぬい始め	18		
●段ぬい	18		
●ぬい終わり	19		
●針板ガイドラインの利用	19		

各部のなまえ



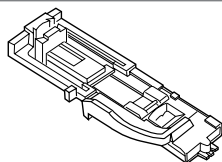
標準付属品・補助テーブル



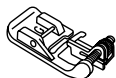
C：ぶちかがり押さえ



F：サテン押さえ



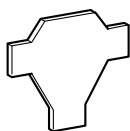
R：オートマチック
ボタンホール押さえ



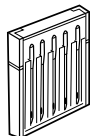
G：ブラインド押さえ



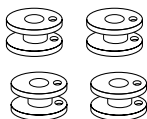
E：ファスナー押さえ



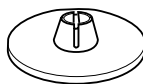
ねじまわし



針と針ケース



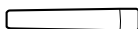
ボビン



糸こま押さえ (大)
※糸こま押さえ (大)
はミシンの糸立て棒
についています。



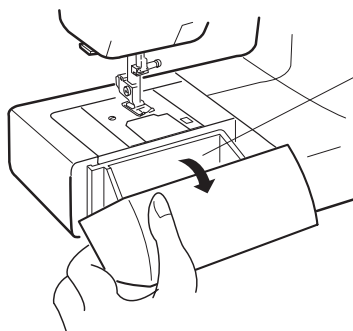
ミシンブラシ



リッパー

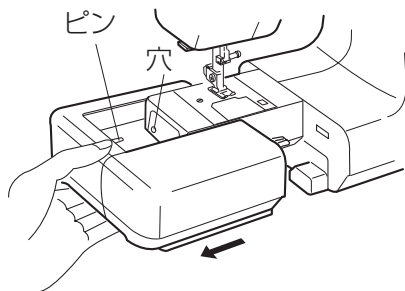


糸こま押さえ (小)



補助テーブルをあけて
付属品を収納します。

【補助テーブルのはずし方】



補助テーブルの下側に手をかけて、
左に引いてはずします。

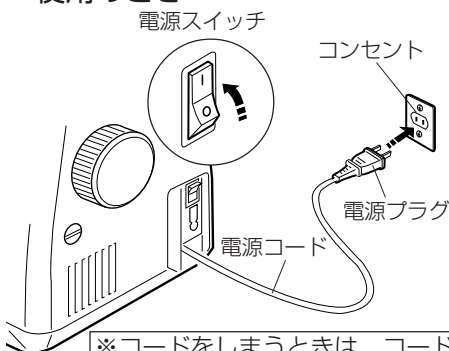
取りつけは、フリーアームに合わせ、
ピンを穴に入れ取りつけます。

操作方法

●電源のつなぎ方

★スタート/ストップボタン

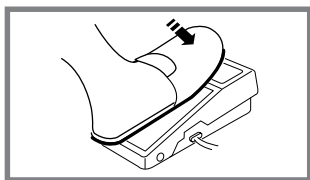
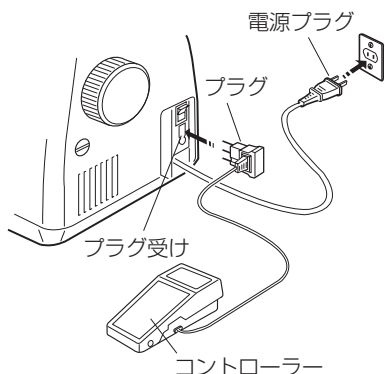
使用のとき



※コードをしまうときは、コードを少し引っ張って、はなしてください。

※マシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

★コントローラー使用のとき



※コントローラーは、落としたり、座ぶとんの下において使用しないでください。

- ① 電源スイッチを切ります。
- ② 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

⚠ 警告

コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引きださないでください。黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。
感電・火災の原因になります。

- ③ 電源スイッチ入れます。

- ① 電源スイッチを切ります。
- ② コントローラーのプラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ④ 電源スイッチ入れます。

コントローラーを踏むとマシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。踏み込みをはずすとストップします。

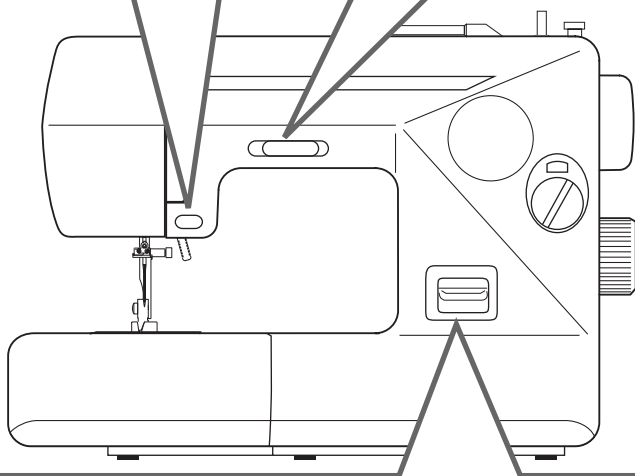
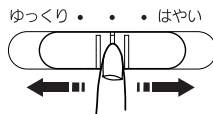
- ※ コントローラーを接続するとスタート/ストップボタンはきかなくなります。
- ※ スピード調節つまみは、最高スピードを調節します。
速くしたいときは、右にセットしてください。(6ページをごらんください。)

● スタート/ストップボタン

このボタンを押すたびにミシンはスタートとストップをくり返します。ぬい始めはゆっくり回ります。針は、常に上の位置で止まります。

● スピード調節つまみ

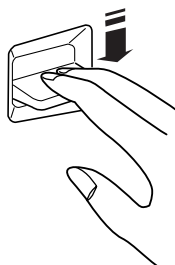
このつまみを右に動かせば、だんだん速く、左に動かすとゆっくりになります。



● 返しぬいレバー

【停止中の返しぬい】

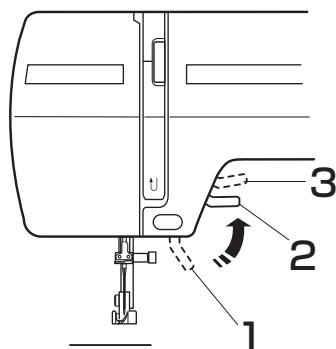
ミシンが動いていない状態でレバーを押すと、低速で返しぬいを始め、指をはなすと止まります。



【運転中の返しぬい】

ミシンが動いている状態でレバーを押すと、押し続けている間は返しぬいをし、指をはなすと前進ぬいになります。

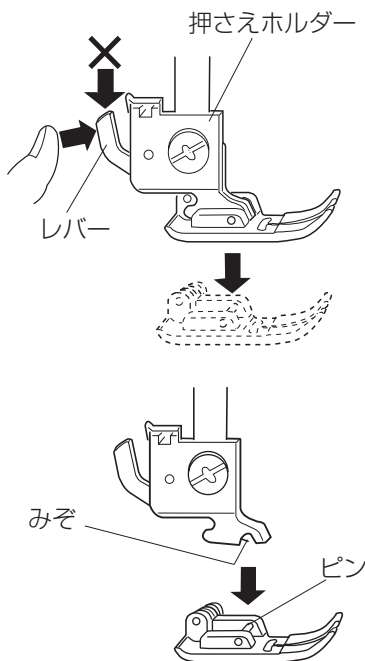
●押さえのあげ方・さげ方



押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。普通にあげた位置よりさらにあげることもでき、厚物の布を入れるときの補助リフトとして使用します。

- 1 押さえ上げをさげた位置
ぬいのはきは、さげておきます。
- 2 普通にあげた位置
布の取り出しや、押さえの交換のときにあげます。
- 3 さらにあげた位置
補助リフトで、厚物の布などが入れやすくなります。

●押さえの取りかえ方

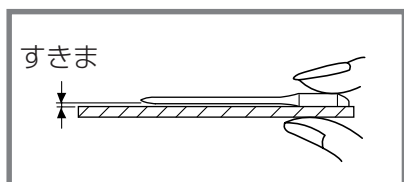
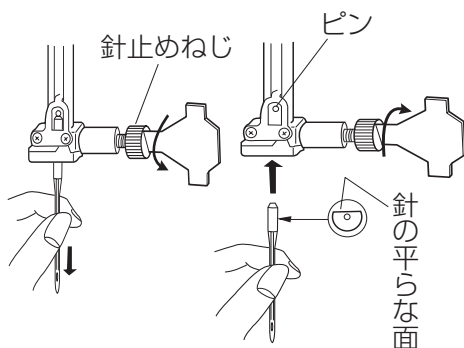


⚠ 注意

必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

- 1 押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバーを押して、押さえをはずします。
※ レバーを上から押すと、故障の原因になります。
- 2 押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにさげます。

●針の取りかえ方



⚠ 注意

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

- ① 針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。
- ② 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●糸と針の選び方

布地の種類	糸の番号	針の番号
■薄地：薄地ジョーゼット、ポイル、オーガンジー、タフタ、絹布など	ポリエステル90	9番～11番
■普通地：ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、サテン、別珍、薄地のコーデュロイ、一般服地など	絹50 綿60 ポリエステル50～90 ナイロン50～90	11番～14番
■厚地：ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイなど	絹50 綿40～50 ポリエステル40～50	14番～16番
■伸縮性の布地：ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど	ポリエステル50～90 ナイロン50～90 絹50 ニット用糸60	11番～14番 ニット用針 (ブルー針)

※伸縮性のある布地や目とびしやすい布地などには、ニット用針（ブルー針）を使用すると効果があります。

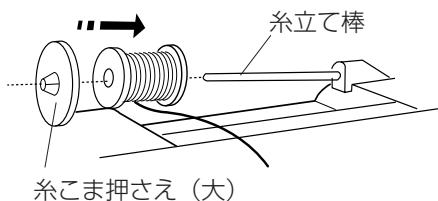
⚠ 注意

針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。
けがの原因になります。

●下糸の準備

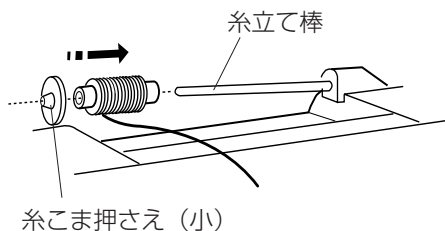
★糸こまの取りつけ

【普通の糸こまのとき】



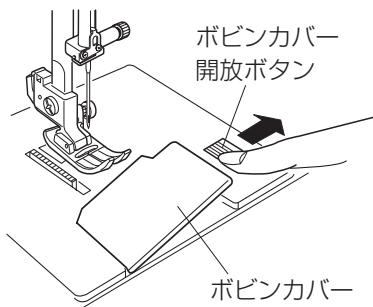
糸立て棒に糸の端が下から手前になるようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

【小さい糸こまのとき】

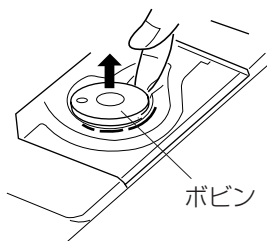


※小さい糸こまのときには、必ず糸こま押さえ (小) を使ってください。

★ボビンの取り出し方

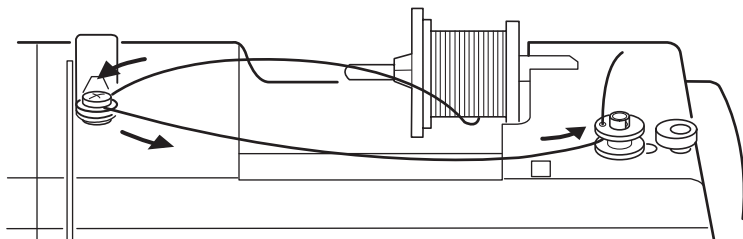


① ボビンカバー開放ボタンを右にずらしてボビンカバーをはずします。

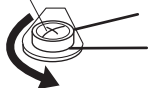


② ボビンを取り出します。

★下糸の巻き方

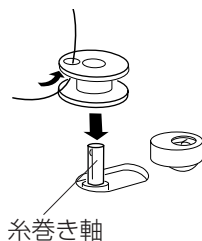


下糸巻き糸案内

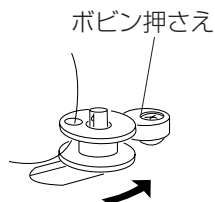


- 1** 下糸巻き案内に巻きつけるようにかけます。

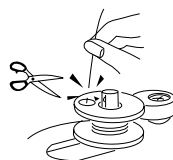
- 2** ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。



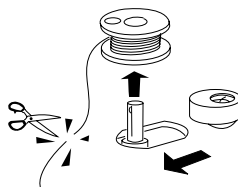
- 3** 糸巻き軸をボビン押さえの方に押しつけます。



- 4** 糸の端をつまんだまま、巻き始めます。糸がボビンに2重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

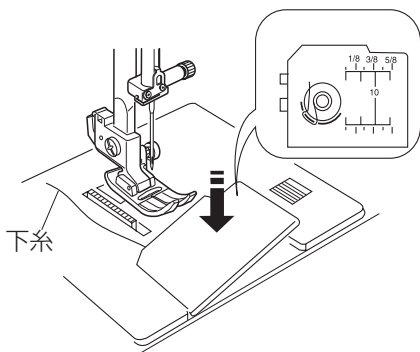
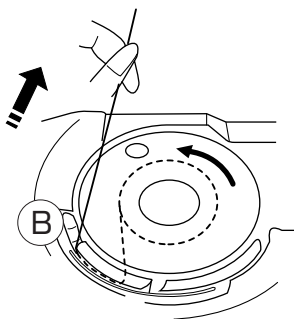
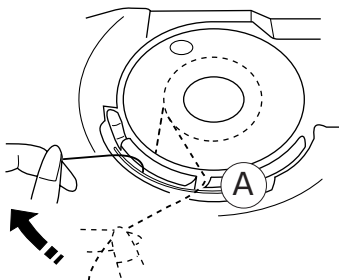
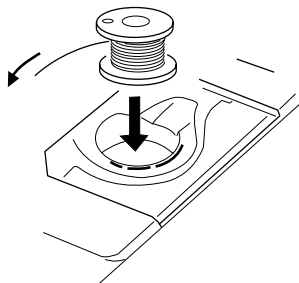


- 5** 再びミシンを動かし巻き終わったら、ミシンを止めます。糸巻き軸をもとにもどし、糸巻き軸よりはずして糸を切ります。



※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

★ボビンのセット



① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

② 糸の端を引きながら、手前のみぞ (A) にかけます。糸を引きながら左へ移動させ、みぞの外とバネの間を通して、左側のみぞ (B) のところに出します。

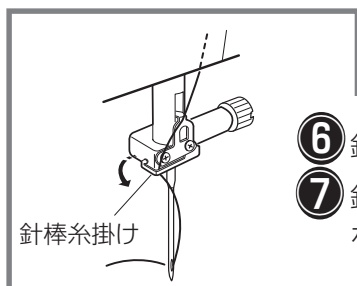
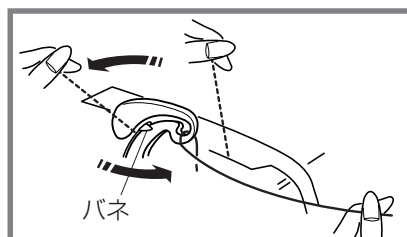
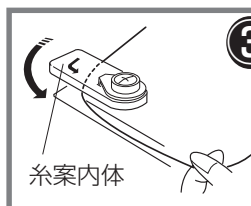
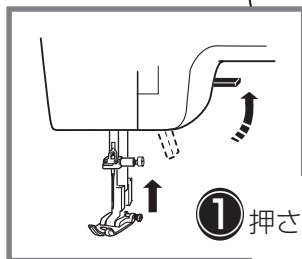
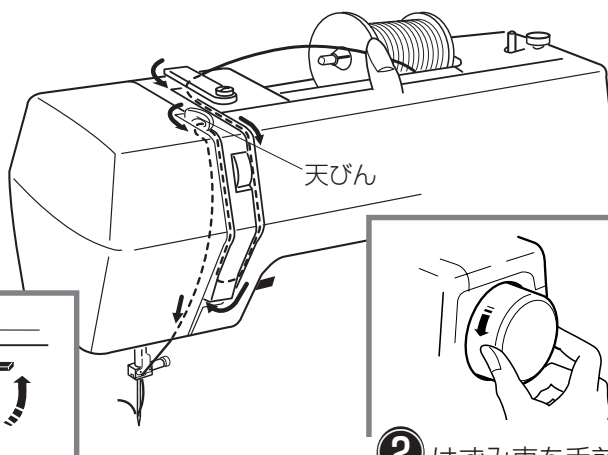
③ 糸を左側のみぞ (B) にかけるように、向こう側に出します。

※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合には、ボビンの向きを上下逆に入れかえてください。

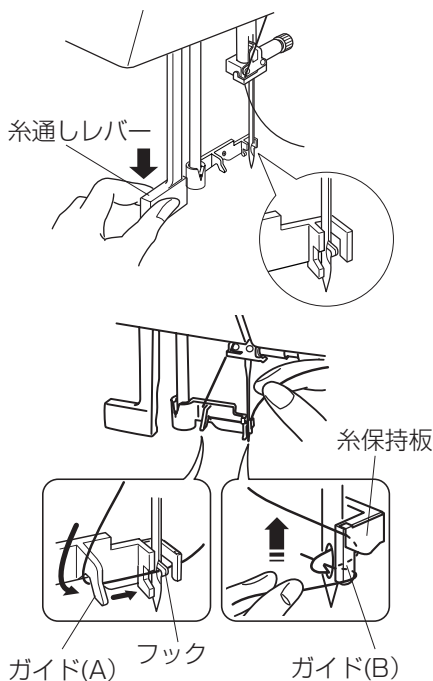
④ 下糸は、10cm くらい引き出して、ボビンカバーを左側から合わせてつけます。

●上糸の準備

★上糸のかけ方



★糸通しの使い方

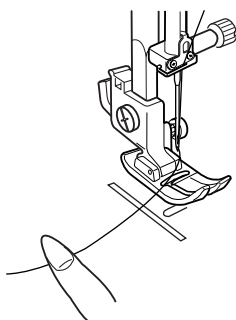


⚠ 注意

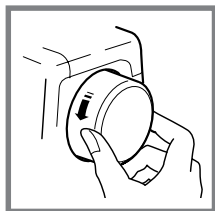
ミシンが動いているときに糸通しレバーは、さげないでください。
けがの原因になります。

- ① 針を一番上にあげて、糸通しレバーを止まるまでいっぱい引きさげます。フックが針穴に入ります。
- ② 糸を左側からガイド (A) とガイド (B) にかけます。
※ 糸がフックの下を通っていることを確認します。
- ③ 糸をガイド (B) の右から手前にまわして、そのままガイド (B) の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。
- ④ レバーを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。
- ⑤ 糸の輪を糸通しからはずし、針穴から糸の端を引き出します。

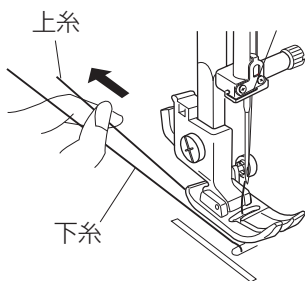
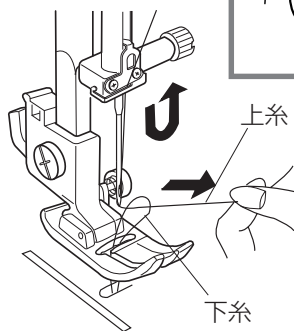
★下糸の引き上げ方



- ① 押さえをあげ、糸の端を指で押さえておきます。



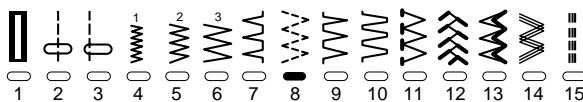
- ② はずみ車を手前に1回転させ、上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



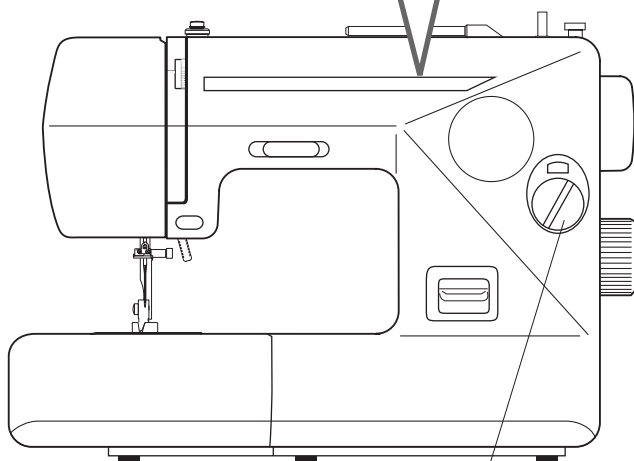
- ③ 上糸と下糸を押さえの下にして、後ろへそろえて10cmくらい出します。

●模様選択ダイヤル（模様の選び方）

模様選択ダイヤルを回し、ミシンの前面に表示されている模様
赤マークを合わせて、模様を選びます。



模様にあった、
押さえ記号表示
A
押さえ



送りダイヤル

⚠ 注意

模様を選ぶときは、必ず
ミシンを止め、はずみ車
を手前に回して、針を布
からあげてください。
けがや故障の原因にな
ります。

模様選択ダイヤル

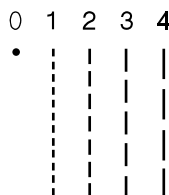
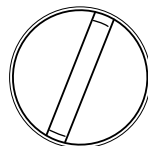
このダイヤルを
回して模様を選
びます。

●ぬい目の長さ調節つまみ

送りダイヤルを回し、数字を指
示マークに合わせます。
大きい数字に合わせるほど、長
いぬい目になります。

■ はボタンホールや密着ぬ
い有的时候に合わせます。

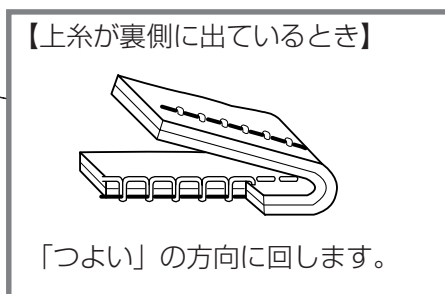
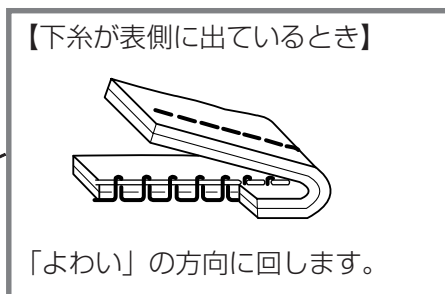
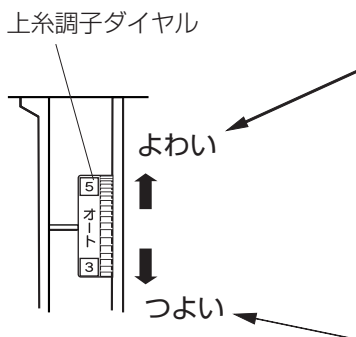
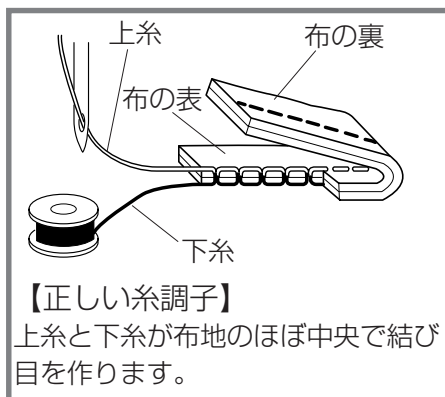
2 指示マーク



●糸調子のとり方

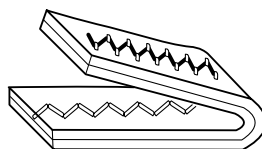
通常、上糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、正しい糸調子になる様調節されています。

布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合は、下図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。



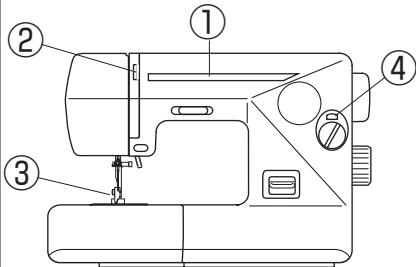
■ジグザグぬいの糸調子



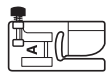
ジグザグぬいの場合は、直線ぬいするときより上糸調子をやや弱めにして、上糸が布の裏側に少し出ると、きれいにぬえます。

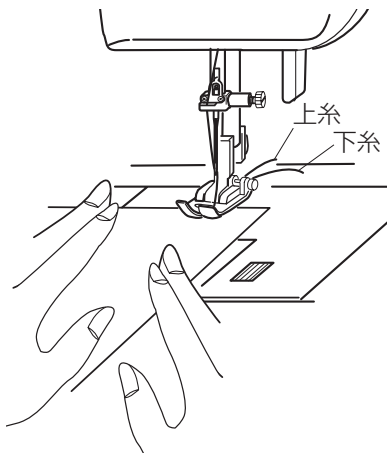


直線ぬい

ミシンのセット



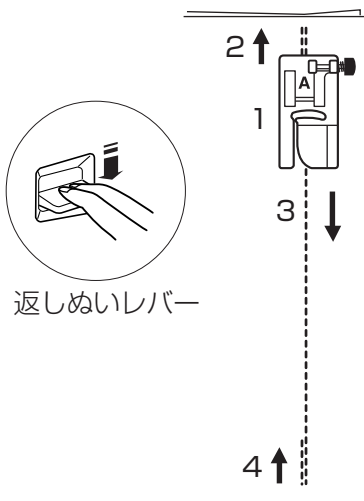
- ①模様  または 
- ②上糸調子ダイヤル オート
- ③押さえ A: 基本押さえ 
- ④ぬい目の長さ 1 ~ 4



●ぬい始め

上糸と下糸を押さえの下を通し、向こう側に引き出し、押さえをさげてぬい始めます。

※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

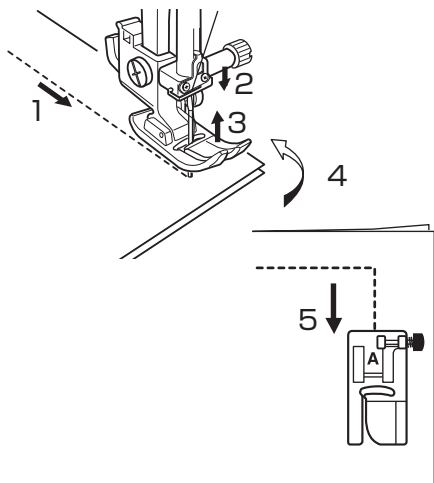


●返しぬい

ぬい目のほつれを防ぐため、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。

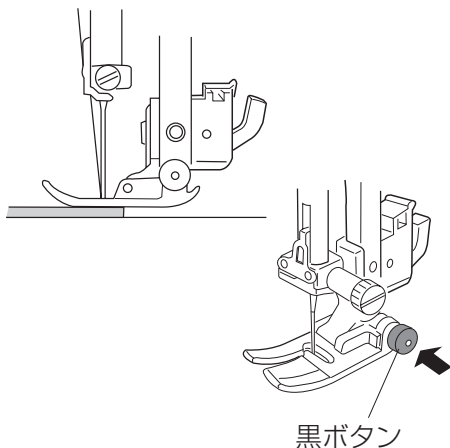
- 1 返しぬいの分、布を奥に入れて、押さえをさげます。
- 2 返しぬいレバーを押して、4~5針返しぬいをします。はなすと止まります。
- 3 スタートボタンを押して、布地の端までぬい進めます。
- 4 ぬい終わりに、もう一度返しぬいレバーを押します。

●ぬい方向のかえ方



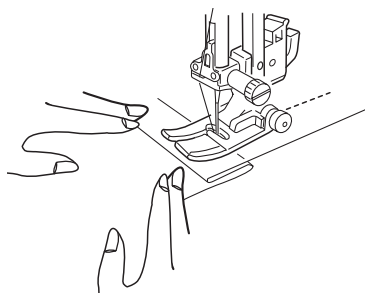
- 1 布地の角まできたら、ストップします。
- 2 はずみ車を手前に回して、針を布にさします。
- 3 押さえをあげます。
- 4 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
- 5 押さえをさげて、ぬい始めます。

●厚手のぬい始め



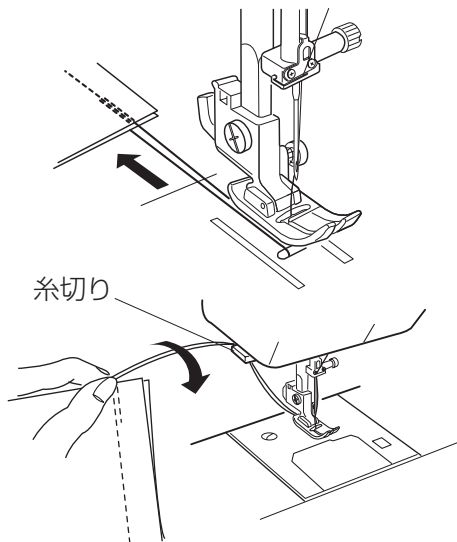
- 1 ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。
 - 2 黒ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。
 - 3 黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。
- ※ 黒ボタンを押した状態で押さえ上げをさげると押さえが水平に固定され、段部をスムーズにぬい始めることができます。
ぬい始めると黒ボタンがもどり、押さえはもとの自由に動く状態になります。

●段ぬい



布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときには、手で布の送りを助けながらぬいます。

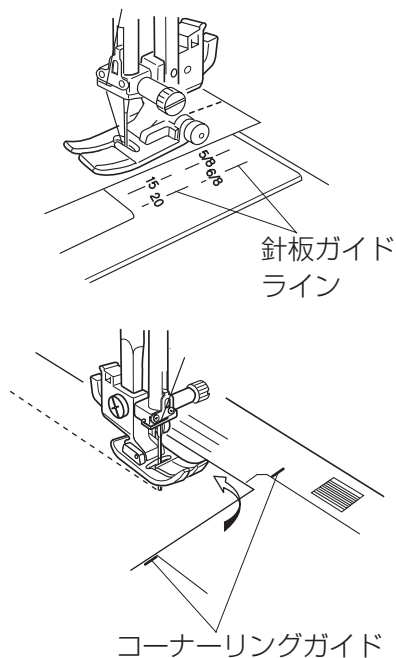
●ぬい終わり



1 押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

2 布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

●針板ガイドラインの利用



布端を針板ガイドラインに合わせてぬいます。

※数字は針穴中央からガイドラインまでの距離です。

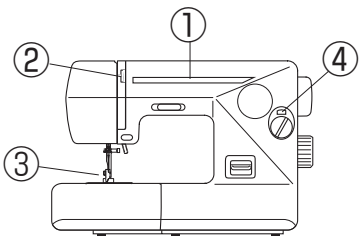



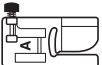


数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく(cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

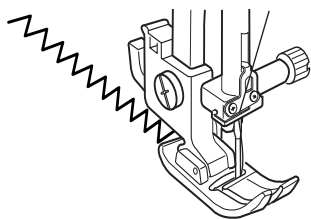
【コーナーリングガイド】

布端がコーナーリングガイドのところにきたらミシンを止め、針を布にさしたまま押さえをあげ、布を回転させます。

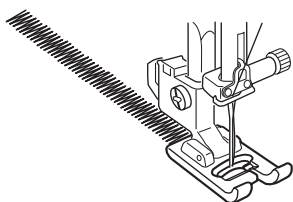
(針穴から 1.6cm の位置です。)


ジグザグぬい

ミシンのセット		1	2	3
	①模様			
	②上糸調子ダイヤル	オート		
	③押さえ	A：基本押さえ  または、 F：サテン押さえ 		
	④ぬい目の長さ	0.5() ~4		



布地のはぎあわせや、ふちかがり、アップリケなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。

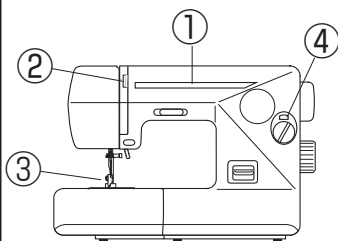










ぬい目の長さを”  ” に合わせると密着ぬいになります。
 押さえは、F：サテン押さえを使用します。

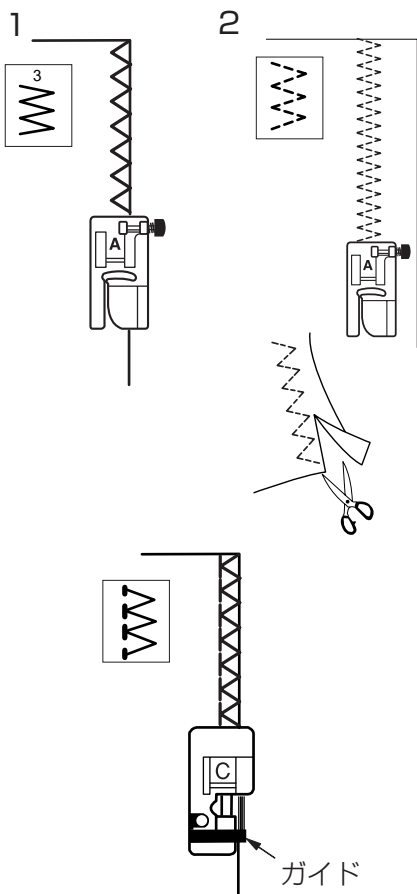
伸縮性のある布(ニット、ジャージ、トリコットなど)には芯地を貼ると、きれいにぬえます。

ふちかがりぬい (たち目かがり)

ミシンのセット



- ①模様  または 
- ③押さえ A: 基本押さえ 
- ①模様 
- ③押さえ C: ふちかがり押さえ 
- ②上糸調子ダイヤル オート
- ④ぬい目の長さ 模様   のとき1.5~3
- 模様  のとき操作は必要ありません。



布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。

【ジグザグ押さえを使う場合1】

針を布端より少し外側に落としながらぬいます。

【ジグザグ押さえを使う場合2】

ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。


ぬい目を切らないように注意してください。

※ ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。

【ふちかがり押さえを使う場合】

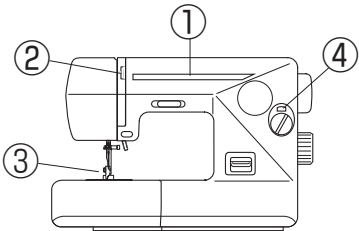
布端を押さえのガイドにあて、針が布端いっぱい落ちるようにしてぬいます。

⚠ 注意


ふちかがり押さえは、必ず模様  だけにお使いください。ほかの模様では、針が押さえにあたりけがの原因になります。

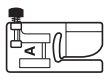
つくろいぬい (点線ジグザグぬい)

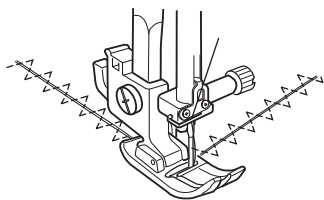
ミシンのセット



- ①模様
- ②上糸調子ダイヤル
- ③押さえ
- ④ぬい目の長さ

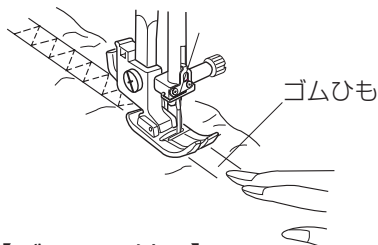

 オート
 A: 基本押さえ


 1 ~ 3



【つくろいぬい】

ぬい目の長さをこまかくしてぬいます。

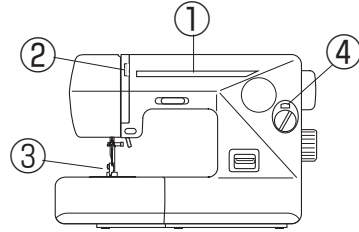


【ゴムひも付け】



ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付けます。

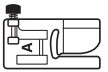
伸縮強化ぬい

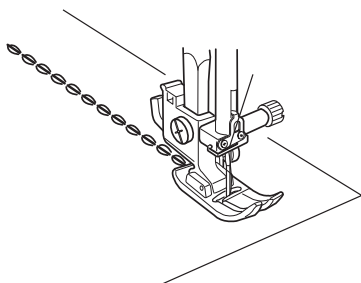
ミシンのセット



- ①模様
- ②上糸調子ダイヤル
- ③押さえ
- ④ぬい目の長さ

 または 
 オート
 A: 基本押さえ

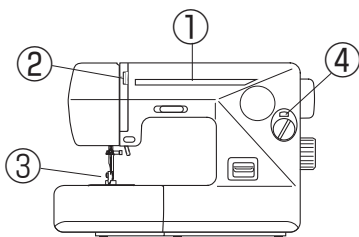

 操作は必要ありません。



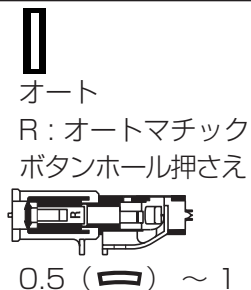
直線とジグザグの三重ぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。また非常に強いぬい目です。ジャージ、メリヤスなどの伸縮性布地や力がかかってほつれやすい部分、デニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。

オートボタンホール

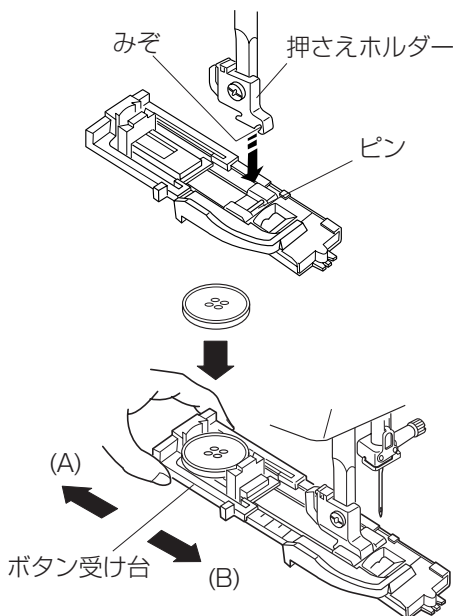
ミシンのセット



- ① 模様
- ② 上糸調子ダイヤル
- ③ 押さえ
- ④ ぬい目の長さ

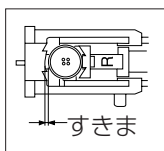


- ※ ボタンホールの長さは、使用するボタンを R：オートマチックボタンホール押さえのボタン受け台にはさみ込むと、自動的に決まります。
- ※ ボタンの直径が 1.0～2.5cm までボタンホールができます。
- ※ ぬうものと同じ布で試しぬいをして、ミシンのセットを確かめましょう。
- ※ 伸縮性のある布には、裏に紙などをあててぬいますと、布の伸び縮みを防ぐことができます。紙はぬい終わったら取り除きます。

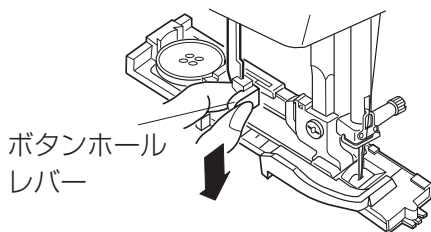


① 押さえホルダーのみぞと押さえのピンを合わせ、押さえ上げてさげてセットします。

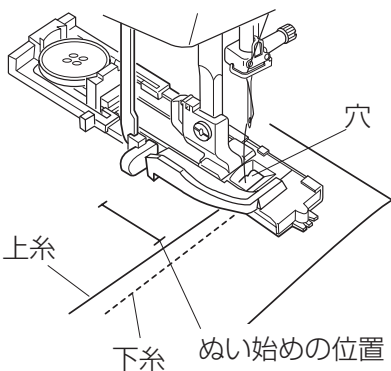
② ボタン受け台を(A)方向へ引き、ボタンを乗せて(B)方向にもどしてはさみ込みます。



※ ボタン受け台とボタンのすきまをあけて位置決めをすると、その分大きいボタンホールができます。



ボタンホール
レバー



上糸

下糸

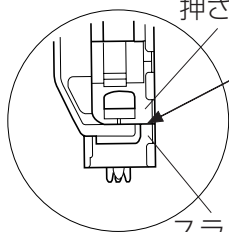
ぬい始めの位置

穴

押さえスライダー

ここにすきま
がないこと

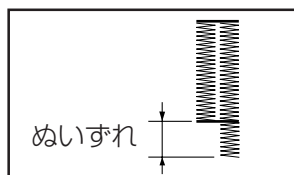
スライダーストッパー



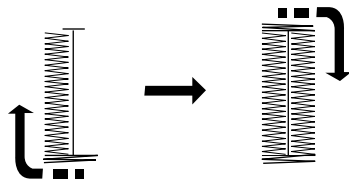
③ ボタンホールレバーを止まるまでいっぱい引き上げます。

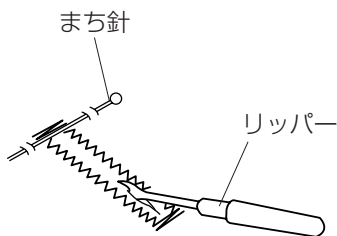
④ 押さえをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、ぬい始めの位置に針をさして、押さえを下げます。

※ ぬい始めに、押さえスライダーとスライダーストッパーの間にすきまがないことを確認してください。
すきまがあると、ぬい終わったときぬいずれがおこることがあります。



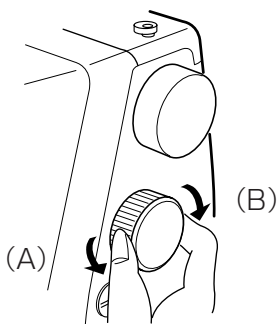
⑤ ミシンをスタートさせ自動的に止まるまでぬいます。



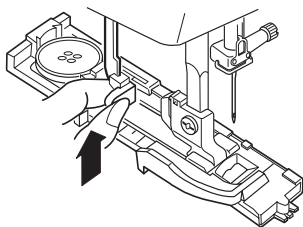


- 6** 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
かんぬきの内側にまち針をわたして、リッパーでかかった糸を切らないように切り開きます。

【引き続きオートボタンホールをする場合】

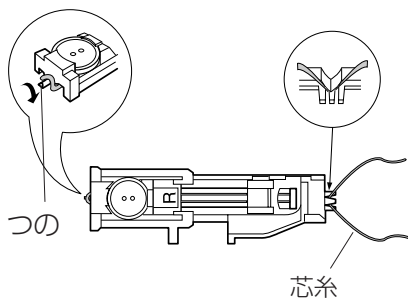


- 1度模様選択ダイヤルを(A)または、(B)方向にまわして、他の模様を選んだ後、ふたたびダイヤルをもどしてボタンホール模様を選びます。
この操作をすると次のオートボタンホールぬいのセットが出来たこととなります。

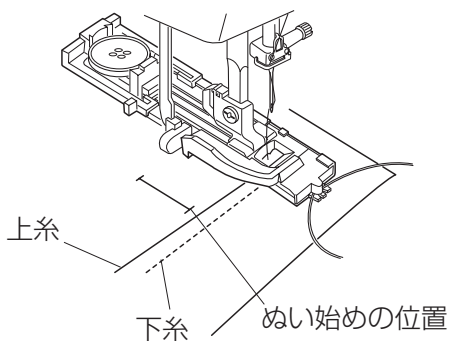


- 7** ボタンホールぬいが終わったら、ボタンホールレバーを止まるまでいっぱい押しあげてください。

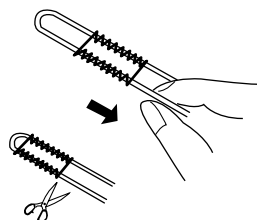
●芯入りオートボタンホール



- ① R：オートマチックボタンホール押さえを押さえホルダーにセットして、芯糸の輪を押さえの後ろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引きだし、前側の三つ又ははさみます。



- ② 上糸と下糸を横に引き出してそろえます。
ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。
ミシンをスタートさせて、オートボタンホールの手順と同じようにぬいます。

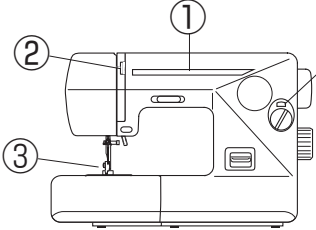


- ③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ 穴のあけ方は、25ページをごらんください。

ファスナーつけ

ミシンのセット



- ①模様
- ②上糸調子ダイヤル
- ③押さえ
- ④ぬい目の長さ




オート

E: ファスナー押さえ



1 ~ 2

⚠ 注意

ファスナー押さえは、必ず模様  だけに使用してください。
ほかの模様では、針が押さえにあたり、**けがの原因**になります。

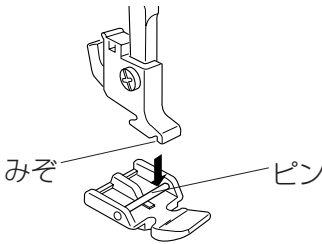
【ファスナー押さえのつけ方】

左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

右側をぬうときは、左側にセットします。

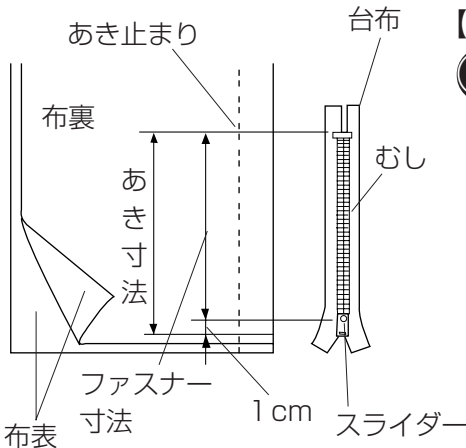
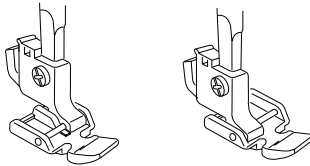
【1】 左側をぬうとき

【2】 右側をぬうとき



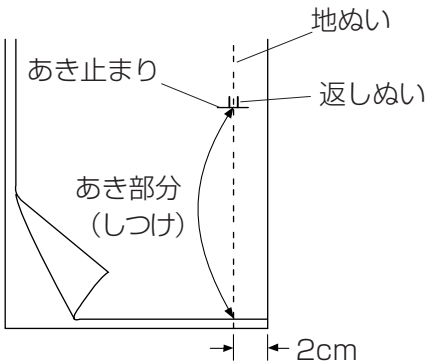
【1】

【2】



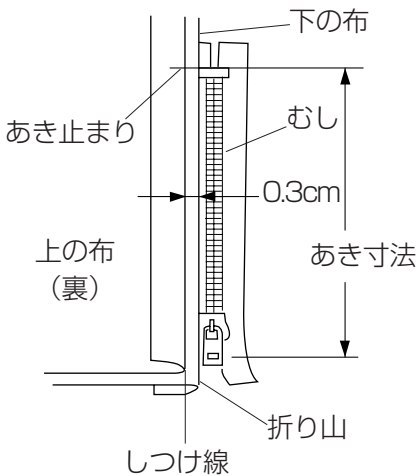
【準備】(脇あき)

① ファスナーのあき寸法を確かめます。あき寸法はファスナー寸法に1cm プラスした寸法です。



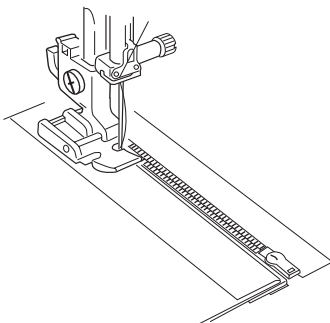
- ② しつけと地ぬいをします。
 布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
 あき部分は、ぬい目のあかさ4 (0.4cm) でしつけをします。

※ しつけは、ほどこやすいように糸調子を「1」くらいにしてぬいます。

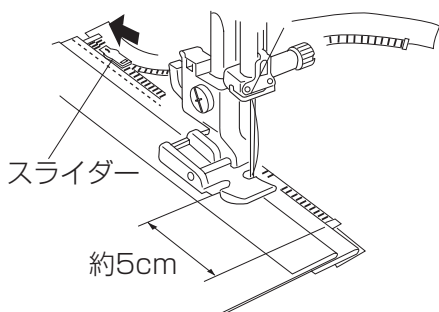


【ぬい方】

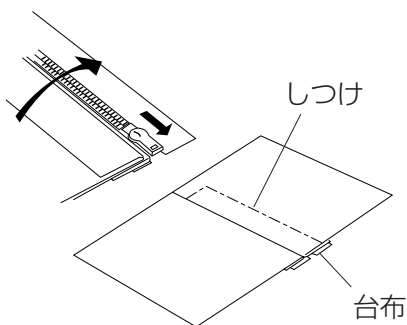
- ① ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



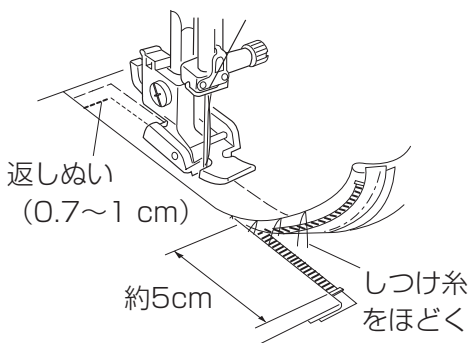
- ② 押さえホルダーをファスナー押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。



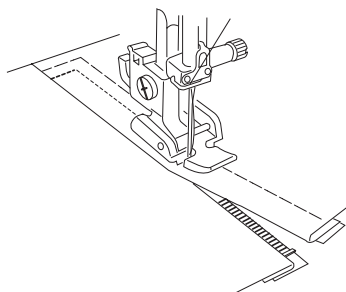
- ③ ファスナーの端から5cmほど手前でミシンの止め、針を布にさします。
 押さえをあげてスライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいませます。



- ④ ファスナーをとじ、スライダーを上にあたおし、上の布をファスナーの上にかぶせませます。
 かぶせませた布と台布をしつけで止めませます。



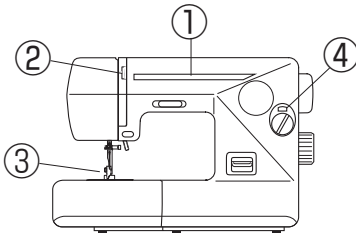
- ⑤ 押さえホルダーをファスナー押さえの左側につけかえ、上の布のあき止まりを(0.7~1cm)返しぬいませます。
 布の向きをかえ、むしのきわに押さえの端をあててぬいませます。
 ファスナーの上側を5cmほど残したところで止め、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままですべて押さえ上げをあげて、準備②でぬいたしつけ糸をほどきませます。



- ⑥ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいませます。
 ぬい終わったら、手順④でぬいたしつけ糸をほどきませます。

まつりぬい (ブラインドステッチ)

ミシンのセット



① 模様

② 上糸調子ダイヤル オート

③ 押さえ

④ ぬい目の長さ 1 ~ 3

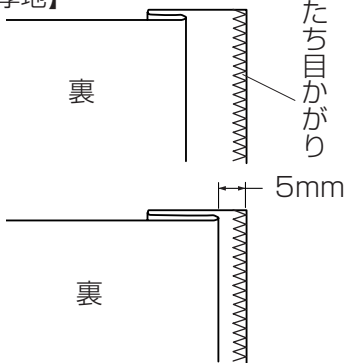


G: ブラインド押さえ

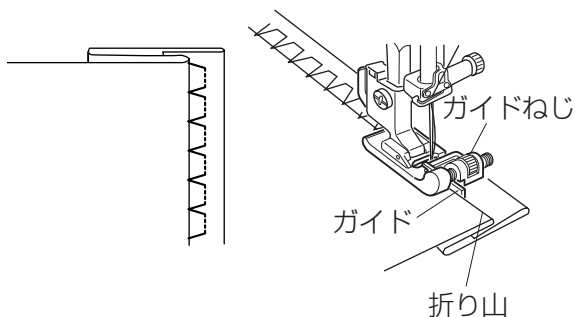
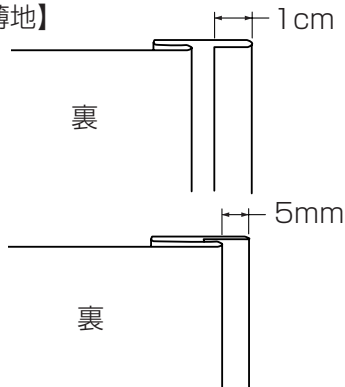


① 布を図のように折ります。

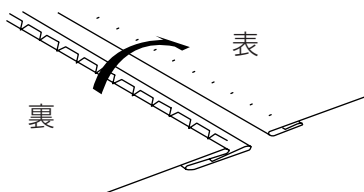
【普通地・厚地】



【薄地】



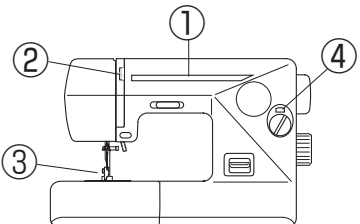
② 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえ上げをさげます。ガイドねじを回して、ガイドを折り山に合わせ針が折り山からはずれないようにぬいます。



③ ぬい終わったら布を表に返します。

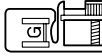
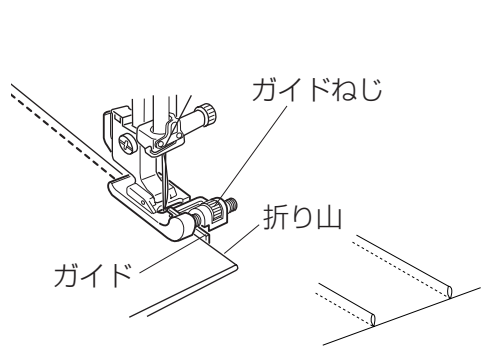
ピンタック

ミシンのセット



- ①模様
- ②上糸調子ダイヤル オート
- ③押さえ
- ④ぬい目の長さ 1 ~ 2

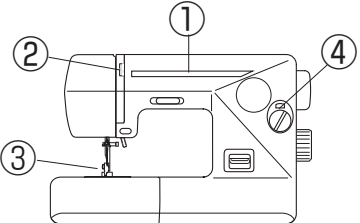
G: ブラインド押さえ

はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押さえ上げをさげます。
ガイドねじを回しガイドを折り山に合わせてぬいます。


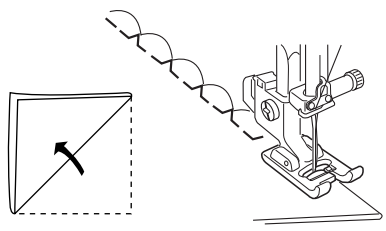
シェルタック

ミシンのセット



- ①模様
- ②上糸調子ダイヤル 6~8
- ③押さえ
- ④ぬい目の長さ 2 ~ 3

F: サテン押さえ

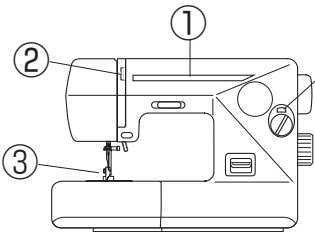



布をバイアスに二つ折りにします。針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。


※糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山がきれいになるように調整します。

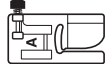
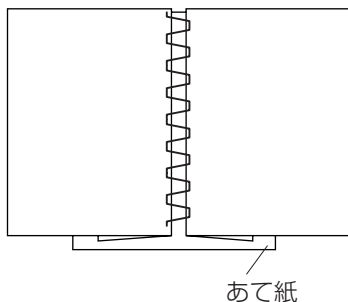
ファゴティング

ミシンのセット



- ①模様
- ②上糸調子ダイヤル オート
- ③押さえ
- ④ぬい目の長さ 1 ~ 3

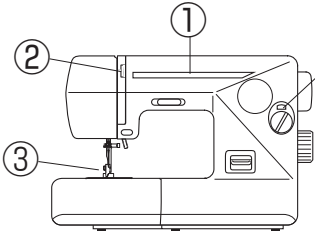

 オート
 A: 基本押さえ


布端と布端の間かくを0.3~0.4cmあけて、下にあて紙をします。
 布の表から間かくの中央を中心にしてぬいます。
 最後にあて紙をとります。

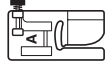
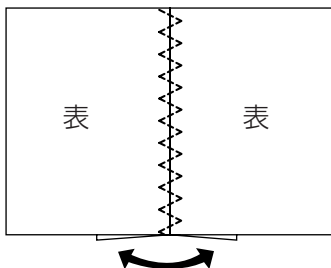
パッチワーク

ミシンのセット



- ①模様
- ②上糸調子ダイヤル オート
- ③押さえ
- ④ぬい目の長さ 1 ~ 3

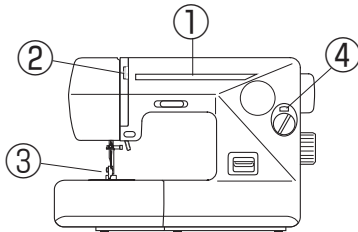

 オート
 A: 基本押さえ

布を中表に合わせ、地ぬいをしてぬいしろを割ります。
 布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

アップリケ

ミシンのセット



①模様

②上糸調子ダイヤル オート

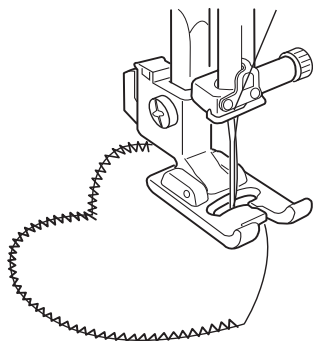
③押さえ

F: サテン押さえ



④ぬい目の長さ

0.5 () ~ 4

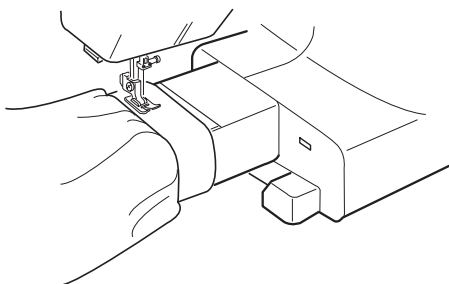


アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。

アップリケの布端をたち目かがりと同じ要領でぬいつけます。

※ カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、針をアップリケの布の外側にさしたままで方向をかえると、きれいに仕上がります。

フリーアームぬい

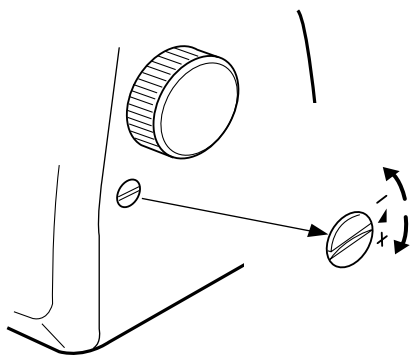


補助テーブルを取りはずすだけでフリーアームミシンになります。

そでぐち
袖口やすそなどのぬい、および、ふくろ物の口端くちしの始末に利用します。

※ 補助テーブルの取りはずし方は4ページを参照ください。

模様形の調整

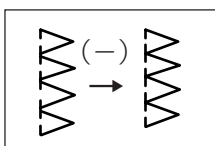


布地の種類や厚さなど、ぬうときの条件によっては、模様形がくずれてしまう場合があります。

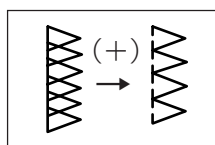
伸縮模様をぬっているときに形がくずれるようでしたら、バランス調節ねじを回してきれいな模様を得られるように調節してください。

【伸縮模様】

下の図のようなときは、ねじ「-」に回します。

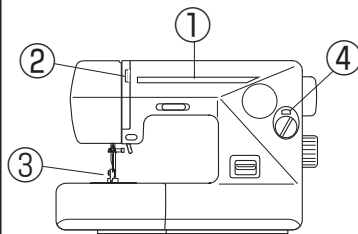



下の図のようなときは、ねじ「+」に回します。



ししゅうぬい

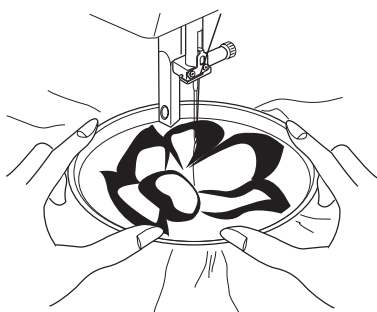
ミシンのセット



- ①模様 
- ②上糸調子ダイヤル オート
- ③押さえ はずす
(押さえホルダーもはずします。)
- ④ぬい目の長さ 操作は必要ありません。
※送り歯をさげます。

- ※ 上糸調子ダイヤルは、布の裏側に上糸が少し出るくらいにゆるくします。
- ※ 模様は、あらかじめ布の上にえんぴつかチョークで印をつけてください。
- ※ ししゅう枠は標準付属品には含まれておりません。

【ぬい方】

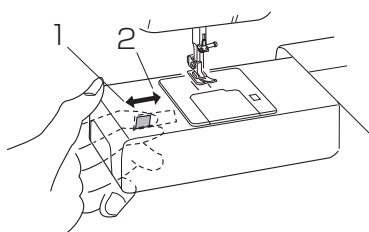


- ① 送り歯をさげます。
- ② 布をししゅう枠にピンと張ります。
- ③ 上糸の端を左手でつまみ、針をぬい始めの位置にさし、押さえ上げをさげます。
- ④ はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。
- ⑤ 左手の指先で上糸と下糸を押えて止めぬいをし、余分な糸を切ります。
- ⑥ ししゅう枠を手で下に押しつけるようにし、ゆっくりぬいながら、針が布から抜けている間にししゅう枠を動かし、模様をぬいます。
※ ぬいが終わったら、送り歯をあげておきます。

⚠ 注意

動いている針に手を近づけないでください。
けがの原因になります。

送り歯のさげ方



ドロップフィードつまみを動かします。

1送り歯をあげる位置 2送り歯をさげる位置



※終わったら、ドロップフィードつまみをあげる位置にもどし、手ではずみ車を手前に回して、送り歯があがることを確認します。

ミシンのお手入れ

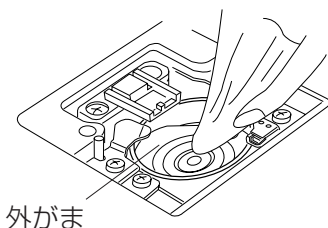
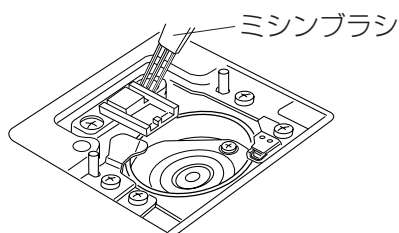
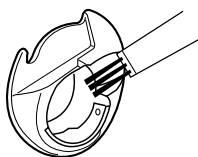
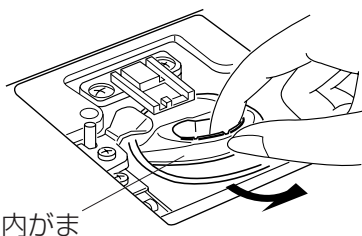
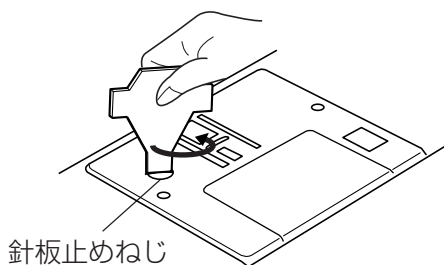
●かまと送り歯の掃除

⚠ 注意

お手入れのときは必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

説明されている箇所以外は分解しないでください。

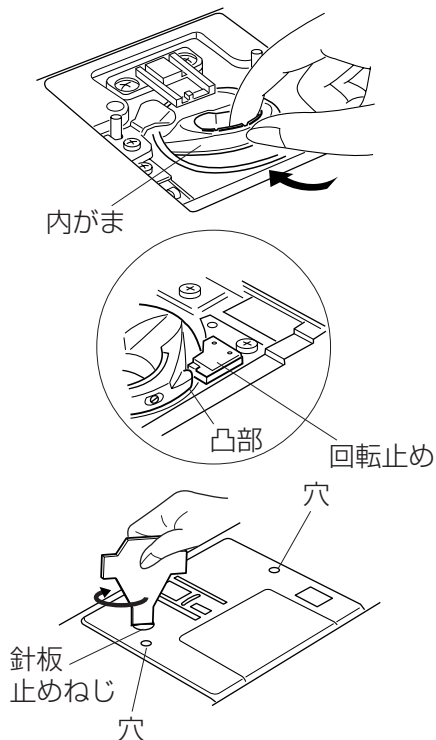
感電・けがの原因になります。



- ① 針と押さえをはずします。
針板止めねじをはずし、針板をはずします。
- ② ボビンをとり出し、内がまの手前を上へ引きながらはずします。
- ③ 内がまをミシンブラシで掃除し、布切れで軽くふきます。
- ④ 送り歯のごみをミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
- ⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸い取ってください。

●内がまと針板の組みつけ



① 内がまを差し込みます。

② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

③ ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせ、止めねじをしめます。

※ お手入れが終わったら、忘れずに針と押さえをつけてください。

ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の場所からみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針のつけ方がまちがっている。 5. むい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. むい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。 	<p>12 ページ参照</p> <p>16 ページ参照</p> <p>8 ページ参照</p> <p>8 ページ参照</p> <p>17 ページ参照</p> <p>19 ページ参照</p> <p>8 ページ参照</p>
下糸が切れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ポビンにキズがあり、回転がなめらかでない。 	<p>11 ページ参照</p> <p>36 ページ参照</p> <p>ポビンを交換する</p>
針がおれる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. むい終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 	<p>8 ページ参照</p> <p>8 ページ参照</p> <p>19 ページ参照</p> <p>8 ページ参照</p>
むい目がとぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針のつけ方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸があっていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ニット用針を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。 	<p>8 ページ参照</p> <p>8 ページ参照</p> <p>8 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p> <p>針を交換する</p>
むい目がしわになる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子があっていない。 2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. 布に対してむい目があらずぎる。 	<p>16 ページ参照</p> <p>11,12 ページ参照</p> <p>8 ページ参照</p> <p>むい目を細かくする</p>

調子が悪い場合	その原因	直し方
布送りがうまく いかない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。 	36 ページ参照 ぬい目をあらくする 35 ページ参照
ぬい目に輪が できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。 	16 ページ参照 8 ページ参照
ミシンがまわらない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンセントに、プラグがきちんと差し込まれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻き軸が、下糸を巻いたあと、元にもどっていない。(糸巻き状態になっている) 	5 ページ参照 36 ページ参照 10 ページ参照
音が高い。	<ol style="list-style-type: none"> 1. かまの部分に、糸くずがまき込まれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。 	36 ページ参照 36 ページ参照
模様が整わない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. バランス調整ねじが合っていない。 	34 ページ参照

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	54W
外形寸法	幅415mm×高さ295mm×奥行172mm
質 量	8.0kg (本体)
使用針	家庭用 HA×1
縫 速 度	毎分700針

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 1 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2 修理サービスは無料修理保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますのでご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品、および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、「製造打ち切り後」通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は、修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
- 3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
- 4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

160年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭にお届けいたしております。

お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入）

シンガーマシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「シンガーマシンお客様相談係」でも承っておりますので遠慮なくお申し越してください。

株式会社ハッピージャパン

「シンガーマシンお客様相談係」

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
TEL. 03-3837-1862 FAX. 03-3837-0072

- ※ 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。
- ※ シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「シンガーマシンお客様相談係」におたずねください。

無料修理保証書について

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から1カ年間）内に故障した場合は、無料で故障箇所の修理調整または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときには、この保証書を提示してください。
4. 保証機種が、軽量可搬のポータブルミシン等であるときは、そのミシンを購入店へご持参または、ご相談下さい。

無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「使用の手びき」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によつたため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災等、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
3. ご購入後の移動または郵送によって、不調、故障または損傷したとき。
4. ご購入店、または当社で指定する販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
6. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
7. この保証書のご提示がなかったとき。
8. この保証書の購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
9. この保証書の字句の訂正または書き換え等をしたとき。
10. この保証書は日本国内に限り有効といたします。

有料修理について

1. 上記の（1）～（10）に該当する場合、その他有料で修理をするときの費用は、別に定める必要部品代、出張費および技術料の合計額といたします。
2. 軽量可搬のポータブルミシンを、無料修理期間中にお客様のご依頼によって販売店が出張修理する場合は、別に定める出張費をいただきます。

お問合せまたはご相談先

この保証書に記載してありますご購入店または、「お客様相談係」へお申し超してください。

お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従つてこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「お客様相談係」等へお問合せください。
2. 「使用の手びき」の最終頁「修理サービス要領」をよくお読み下さい。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。

SINGER®

シンガーミシン

保証書

機械本体がお客様の正常な使用方法で万一故障した場合は、裏面記載の内容で無料修理を保証します。

型 式	5720	機 械 番 号	
*お買上げ日	年 月 日	保 証 期 間	お買上げ日より本体 1 年
* お 客 様	ご住所	〒 _____ TEL _____	
	<small>フリガナ</small> ご芳名	様	
* 販 売 店	住 所 店 名	〒 _____ TEL _____	

*印欄に記入のない場合無効となります。必ず記入の有無をご確認ください。
もし、記入がない場合には、直ちにお買上げの販売店にお申し出ください。
本書は、再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

株式会社 ハッピージャパン

ミシン営業部

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
電話 03-3837-1865

(本社) 〒990-2251 山形県山形市立谷川3丁目3515

® は THE SINGER COMPANY の登録商標です。

758800042